

第8回国際日本語教育・日本研究シンポジウム  
アジア・オセアニア地域における多文化共生社会と日本語教育・日本研究  
2008

**The Eighth International Symposium on  
Japanese Language Education and Japanese Studies:  
Multiculturalism and Japanese Language Education/ Japanese Studies in  
Asia and Oceania  
2008**

案内（詳細）

The University of Hong Kong  
Pokfulam Road, Hong Kong  
e-mail:hkusympo@hku.hk

1. 開催日  
2008年11月8日（土曜日）第一日目  
2008年11月9日（日曜日）第二日目
2. 会場  
香港大学
3. 主催・後援団体
  - 香港大学現代言語及文化学院日本研究学科・香港日本語教育研究会共同主催
  - 在香港日本国総領事館後援
  - 香港中文大学・香港城市大学・香港理工大学・マカオ大学協力
4. 助成金
  - 平成20年度日本万国博覧会記念基金助成金交付事業  
<http://www.expo70.or.jp/>
  - 平成20年度日本国際交流基金日本研究組織強化支援プログラム助成金交付事業  
<http://www.jpjf.go.jp/index.html>
5. 内容
  - (1) 背景  
1994年11月に香港城市大学で第一回国際日本語教育・日本研究シンポジウムが開催され、その後、このシンポジウムはほぼ二年に一回のペースで香港地区の各大学と香港日本語教育研究会が共催しており、今回は第8回目となる。今回のシンポジウムは「アジア・オセアニア地域における多文化共生社会と日本語教育・日本研究」をテーマとして、日本語教育・日本研究をとおして、アジア・オセアニア地域における多様な文化的価値観を持った人々の相互理解と相互信頼の促進を目的として開催する。

## (2) 概要

### 日本語教育

#### 1. 学習の多様化

あらゆる年齢層・社会層が教育の機会に恵まれている香港では、各学習者が受ける日本語教育がひとつの教育機関にとどまらない場合が非常に多い。語学学校で日本語を学ぶ児童生徒の増加、市内の大学間の日本学習者の移動、または留学による国を超えた移動などは近年急速に増えている。また、中・高等学校での選択外国語の一つとして日本語が香港政府から認可を受けたことで、若年層の学習者数増加に拍車がかかることは明らかだ。しかし、日本語習得を目指す人々の背景、とくに学習体験の多様化に対する共通の理解とそれに対応する準備が香港の日本語教育関係者の間に十分あるとは言い難い。

#### 2. 日本語能力試験への関心の高さ

一方、日本語能力試験の受験者数を見てみると、香港・マカオ地区では1984年に開始以来伸び続け2006年度の受験者数は12,221人(因みに、国別4位タイの11,861人を上回る)と、能力試験への関心が非常に高いことがわかる。関心は高いが、1級・2級などと表される評価が能力との関連においてどんな意味を持つのか自覚している受験者はほとんどいないと思われる。もし指導項目の目安となる能力基準と、能力試験の評価基準に明らかな繋がりを今回のシンポジウムを通して見出すことができれば、能力試験への関心の強さが日本語の学習にも指導にも理想的なかたちで反映されるにちがいない。

#### 3. 今、必要なこと

どこの機関においてもどこの国においても通用する日本語使用能力の記述が、香港において今ほど重要になったことはかつてないのではないだろうか。近い将来、言語スタンダードと評価基準の繋がりを、多文化・多言語社会としての香港にふさわしいことばで言い表す必要があるだろう。そして、日本語能力試験を教育の現場でどう取り扱っていくのが適当なのか考えなければならない。主催者側としては、その必要性を自覚する起爆剤としてこのシンポジウムをとらえている。実際には、学習体験の多様化・グローバル化などに関する論文の発表に加えて、アジア・オセアニアにおいて日本語スタンダードの検討に数年来携っている研究者らを集めたフォーラムを計画している。それを通して現在の香港における日本語教育を見つめ直し、将来の展望への示唆を得たい。

## 日本研究

一方、文化研究の分野で多文化共生の問題を考えるときに、マイノリティーや、ディアスポラや、国民国家などの概念と多文化共生との関連が考えられるが、今回のシンポジウムはそうした用語に伴う理論的枠組みを構築したり、方法論を洗練したりするということを目的としているものではない。それよりも、日本文化研究に従事している教師・研究者が日本文化の教育現場などにあらわれる異文化に基づく解釈の相違などを具体的・実践的に報告することを通して、現在、アジア・オセアニア地域文化圏にどんな共通した文化的価値観があるのか、またそれぞれの地域によってどんな異なる文化的価値観があるのか、そこから同じ事象に対して異なる文化によってどんな異なった解釈が生まれるのか、そして多文化共生地域を実現していくためにはその異なった解釈をどのように擦り合わせていけばいいのか、という問題を考えていきたい。

さらに、この文化研究で得られた知見をもう一度日本語教育へとフィードバックし、異文化研究における解釈の相違のメカニズムを踏まえた言語教育における異文化理解能力の開発へと結び付けていきたい。